

McLaren

Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

13

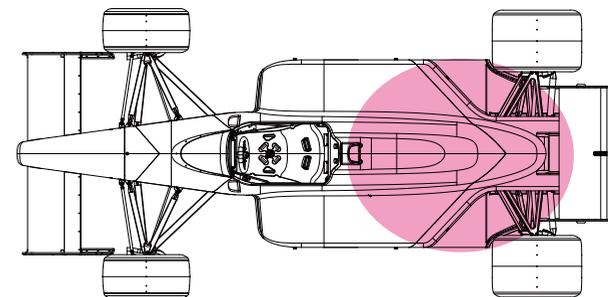
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



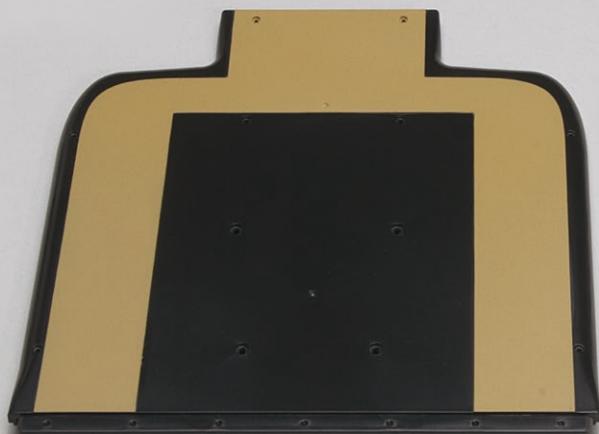
Mission 47 ギアボックスを組み立てる⑨

今号はギアボックスにエンジンオイルタンクを取り付け、ギアボックスを完成させる。そして、新たにモノコックやエンジン、ギアボックスの下部に取り付けられるアンダーパネルの組み立てに入る。まずアンダーパネル(前)にアンダーパネルパーツ(左)(右)を装着する。



今号のパーツ

① アンダーパネル(前)



② アンダーパネル
パーツ(左)



③ アンダーパネル
パーツ(右)



④ ボディマウントブラケットA × 4



⑤ ボディマウントブラケットB × 2



⑥ ビスR(1.4 × 4 F-M BK) × 7



※ビスは予備1本を含む。

※①～③はHIPS(スチロール樹脂)製。④⑤はPA(ナイロン)製。

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・ピンセット
- ・定規
- ・つまようじ

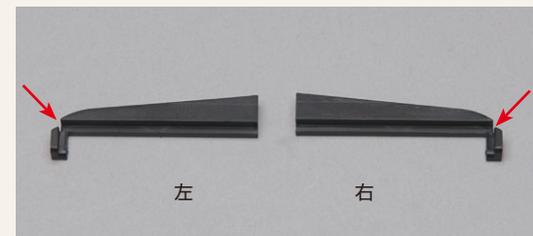
用意するもの

- ・ホースB ※44号で使用
- ・ギアボックス ※46号で組み立て
- ・エンジンオイルタンク ※46号で組み立て

ポイント

アンダーパネルパーツの左右の見分け方

●アンダーパネルパーツは、赤矢印で示した切り欠きを上にして置いた際に、切り欠きが左にあるものが左、右にあるものが右となるので確認しておく。



左

右

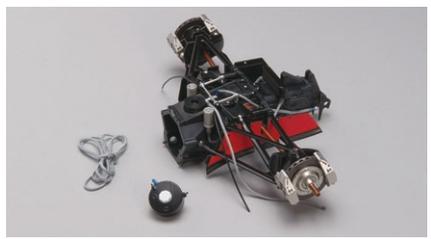
アンダーパネルはモノコックやエンジン、ギアボックスの下部に取り付けられ、それらを保護すると同時に走行中の空力性能を向上させている。アンダーパネルの底面は、展示車両でもその全容を見ることは困難だが、今回のモデル化にあたって、そのディテールを確認することができた。色分けされている部分は異なる素材で形成されており、それが車体性能の向上に関わっていると推測できる。本モデルでは、その色調を可能な限り再現した。

◀MP4/4のアンダーパネル。

In Focus

1 ギアボックスにエンジンオイルタンクを取り付ける

● 44号で使用したホースB、46号で組み立てたギアボックスとエンジンオイルタンクを用意する。

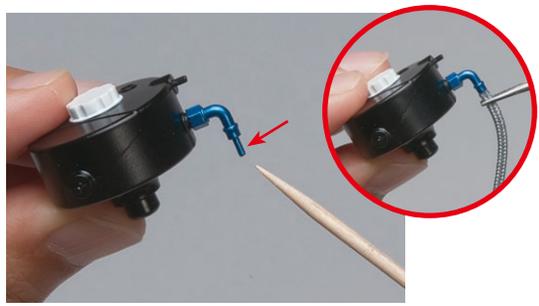


● 40号の組み立てガイドのステップ 3を参照しながら、ホースBの60ミリの長さの部分につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、1分ほどそのままにした後に、60ミリの長さにかッターでカットする。



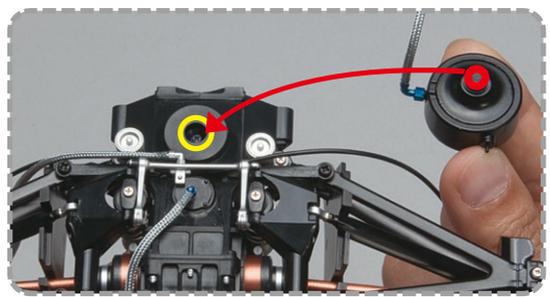
■ カットしたホースBの両先端に、つまようじをさして穴を確認する。

● エンジンオイルタンクに取り付けたギアボックスオイルラインユニオンAの赤矢印で示した先端に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、60ミリの長さのホースBを差し込み、1分ほど押さえる。



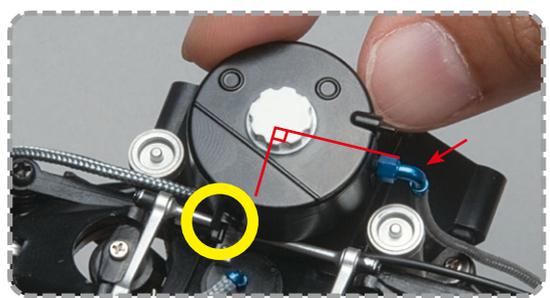
《仮組み》

ギアボックスの黄色い丸で示した凹みに、エンジンオイルタンクの赤丸で示した突起を組み合わせるので確認する。



《仮組み》

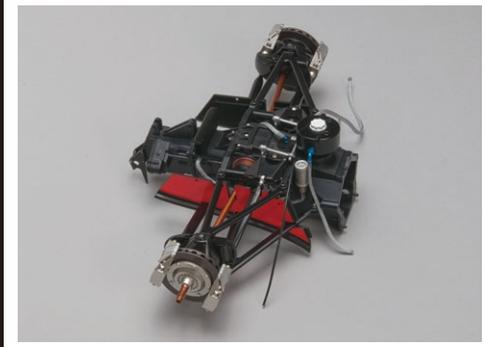
ギアボックスに組み合わせたエンジンオイルタンクは、赤矢印で示したギアボックスオイルラインユニオンAがギアボックスの前後に対して右90度、黄色丸で囲んだ突起が真後ろに来るように確認する。



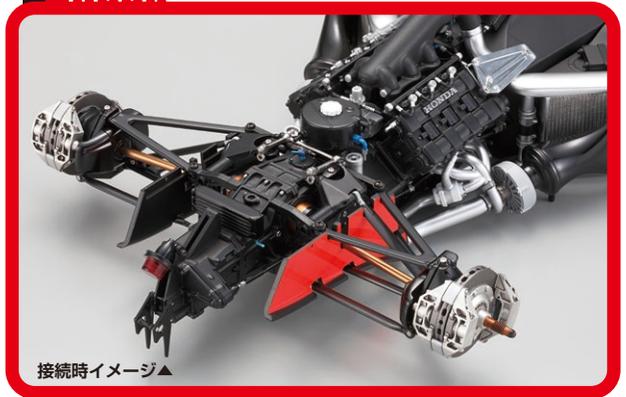
● エンジンオイルタンク下部の赤線で示した突起の根本(全周)につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、仮組みしたようにギアボックスに組み合わせ、1分ほど押さえる。



● ギアボックスにエンジンオイルタンクが取り付けられ、ギアボックスが完成した。



Check

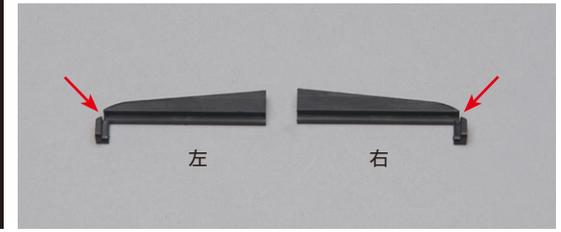


接続時イメージ▲

■ 後の号でエンジン後部に接続される。

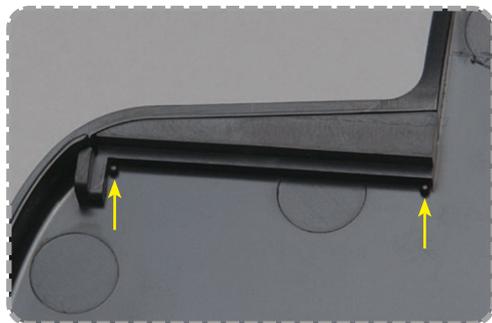
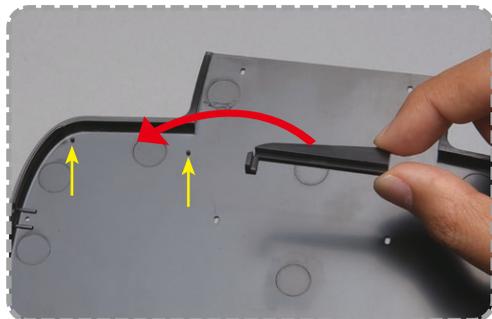
2 アンダーパネル(前)にアンダーパネルパーツ(左)(右)を装着する

● ②アンダーパネルパーツ(左)と③アンダーパネルパーツ(右)の左右を確認する

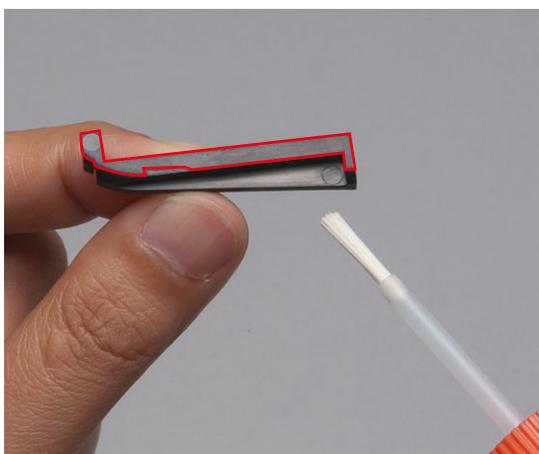


《仮組み》

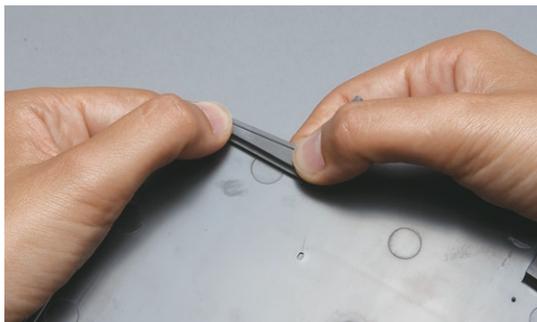
① アンダーパネル(前)の縁の部分と黄色い矢印で示した2つの突起部分の間にアンダーパネルパーツ(左)を取り付けるので、接着面を確認する。



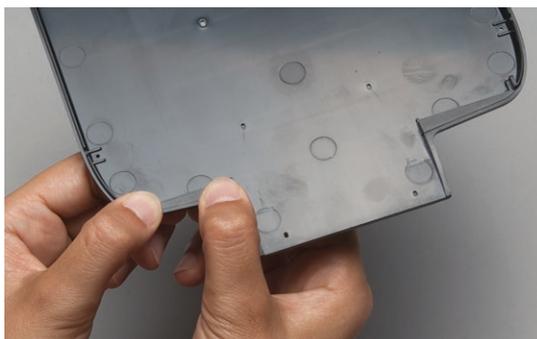
● アンダーパネルパーツ(左)の裏側、赤枠で示した接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。



● アンダーパネルパーツ(左)をアンダーパネル(前)に仮組みしたように組み合わせ、2~3分押さえる。



● 同様に、アンダーパネルパーツ(右)にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、アンダーパネル(前)に組み合わせ、2~3分押さえる。



● 1時間ほど置き、完全に接着されたことを確認する。



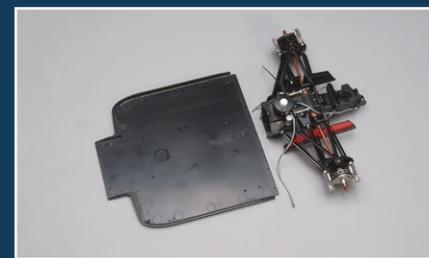
Check



■ 後の号で、モノコック、エンジン、ギアボックスの下部にアンダーパネルが取り付けられる。

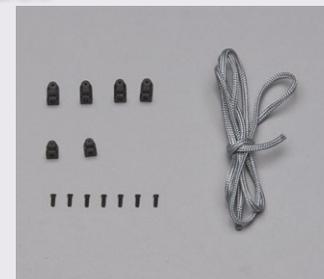
今号の完成

ギアボックスにエンジンオイルタンクが取り付けられ、ギアボックスが完成した。さらにアンダーパネル(前)にアンダーパネルパーツ(左)(右)が装着された。



保管パーツ

今号で使用しなかった④ボディマウントブラケットA、⑤ボディマウントブラケットB、⑥ビスRのほか、ホースBの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



PIT IN

アンダーパネルについて

走行中に高温になるエンジンなどの影響を避けるための遮熱対策

アンダーパネルは、モノコックやエンジン、ギアボックスに吊り下げられる形で固定されている。走行中にエンジンやエキゾーストパイプ、ターボチャージャーは高温になるため、それらに取り付けられている部分に該当するアンダーパネル上面(車体側)には遮熱シートが施されている。

本モデルでは、次号(48号)で提供される実物のグラスファイバーが織り込まれたシルバーラベルを貼ることで、そのディテールを再現していく。



▲アンダーパネルの底面。底面に突起物はなく、後部に整流板がある。



▲アンダーパネル(前)の上面。この部分はエンジンやインタークーラーからの発熱に対応。



▲アンダーパネル(後)の上面。後部はエンジンやエキゾーストパイプ、ターボチャージャーの発熱に対応。



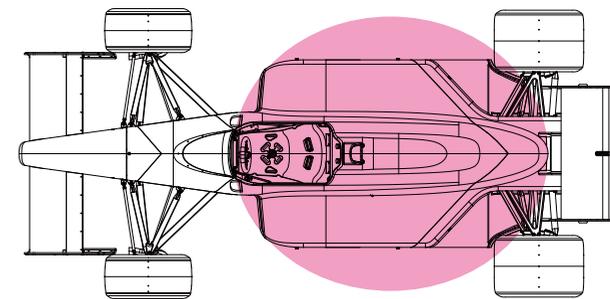
▲本モデルのアンダーパネル(前)(後)の上面。マクラーレン社への取材に基づき、ディテールをリアルに再現。



▲アンダーパネル(後)上面の拡大図。遮熱シートは、その形状に合わせて、さまざまに貼り合わせられている。

Mission 48 アンダーパネルに シルバーラベルを貼る

モノコックやエンジン、ギアボックスに吊り下げられる形で取り付けられるアンダーパネルには、高温に耐えるための遮熱シートが貼られている。今号では、実車のディテールを再現するために、シルバーラベル(遮熱シート)をパーツに合わせてカットし、アンダーパネル(前)(後)に貼り付けていく。



今号のパーツ



① アンダーパネル(後)

② テールパイプ
エンドプレート(右)



③ テールパイプ
エンドプレート(左)



④ プレートパーツ(右)



⑤ プレートパーツ(左)



⑥ シルバーラベル(100×200ミリ)×2



※①～⑤はHIPS(スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・はさみ
- ・ピンセット
- ・定規
- ・コピー用紙程度の厚さの紙
- ・鉛筆など

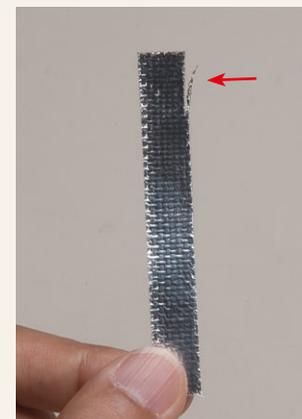
用意するもの

- ・アンダーパネル(前) ※47号で組み立て

ポイント

シルバーラベルの切り方

●ガラスファイバーが織り込まれているシルバーラベルは、切り方によって繊維がほつれてしまうことがある。シルバーラベルを切る際には、カッターの刃をシルバーラベルに真っ直ぐ当て、一度に切るうとせずに2～3回に分けて切るようにすると、ほつれずにきれいに切れる。



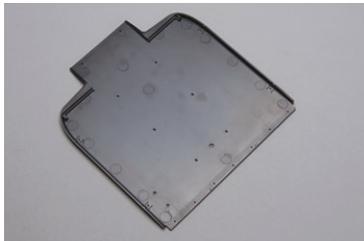
エンジンからの排気はエキゾーストパイプを通り、テールパイプエンドから車体下部後方へ排出される。そのため開けられたアンダーパネルの穴には耐熱性のプレートが取り付けられている。本モデルでは、パーツをシルバーに塗装することでテールパイプエンドプレートの質感を再現した。また、テールパイプエンドとの組み立てやすさを考慮して、実車にはないプレートパーツを追加している。

◀MP4/4のテールパイプエンドプレート。

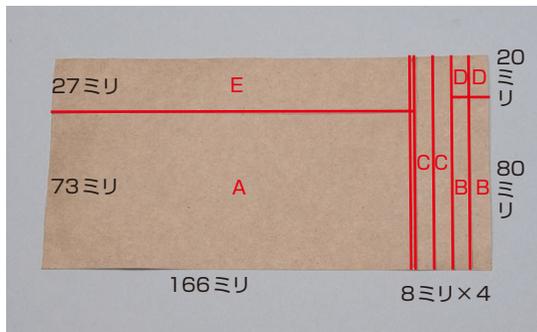
In Focus

1 アンダーパネル(前)に シルバーラベルを貼る

- 47号で組み立てたアンダーパネル(前)を用意する。



- ⑥ シルバーラベル1枚を裏側にして、シルバーラベルA(73×166ミリ)×1、シルバーラベルB(8×80ミリ)×2、シルバーラベルC(8×100ミリ)×2、シルバーラベルD(8×20ミリ)×2、シルバーラベルE(27×166ミリ)×1と写真のように線を引き、カッターでカットする。



- シルバーラベルAの長辺の剥離紙をめくる。



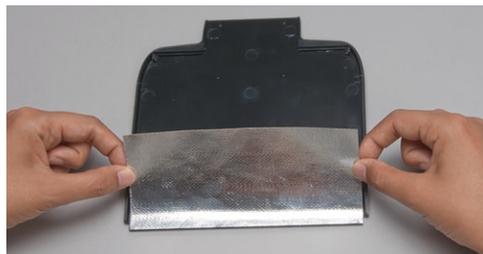
- めくった剥離紙を10ミリ程度の幅でカッターでカットする。



- 残った剥離紙をラベルに戻す。



- シルバーラベルAの粘着部分を、写真のようにアンダーパネル(前)の後方の端に合わせる。



- 剥離紙をはがしながら、シートラベルAをアンダーパネル(前)に密着させていく。



- 左右の青丸で示した突起部分を、指で跡をつけるように押す。

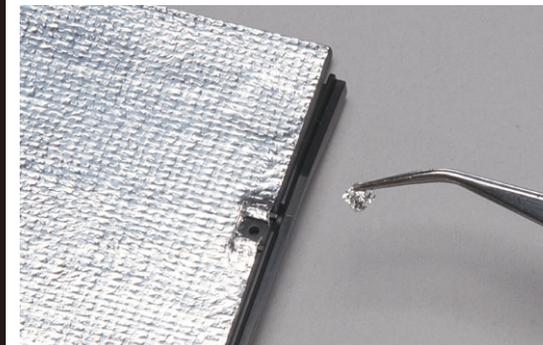


- 左側の突起部分の下は赤丸で囲んだようになっているので、赤線で示したようにカッターで切れ目を入れる。



- 2つの突起の内側に切れ目を入れ、その2辺をつなぐように切れ目を入れる。

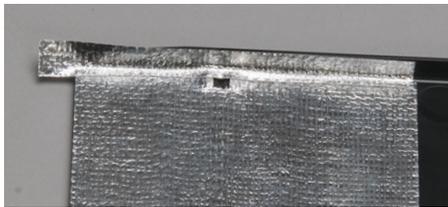
- 切り抜いた部分をピンセットで取り除く。



- シルバーラベルBの剥離紙を少しめくり、アンダーパネル(前)の左側、シルバーラベルAと同じ赤矢印で示した端の部分からパーツに高さを合わせて貼っていく。



- シートラベルBの下側は、シートラベルAに重なる。



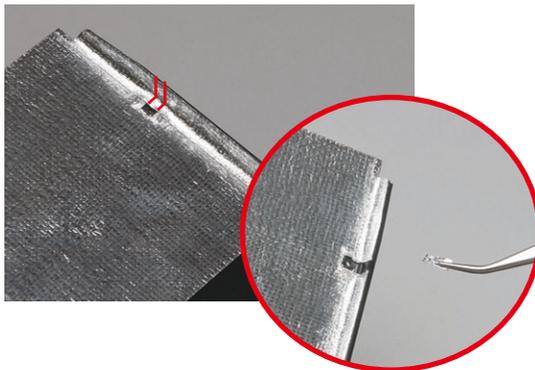
- シートラベルBの端の方はアンダーパネル(前)からはみ出している。



- はみ出ているシートラベルBをはさみでカットする。



- 前の作業でカットした部分の延長線上の赤線で示した部分にカッターで切れ目を入れ、ピンセットで取り去る。

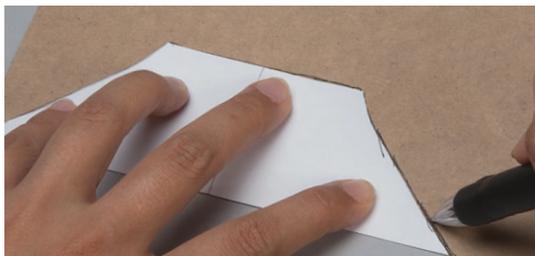


- 同様に右側も同じように突起部分のシルバーラベルAを切り取り、シルバーラベルBを貼り、突起部分の不要な部分をカットし、ピンセットで取り去る。

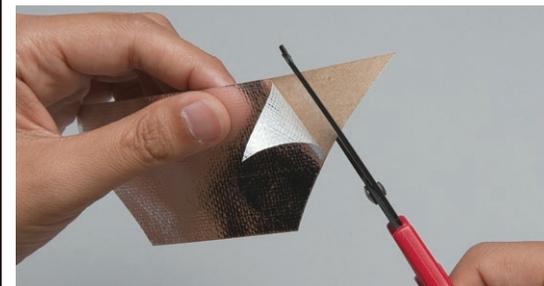


2 アンダーパネル(後)にシルバーラベルを貼る

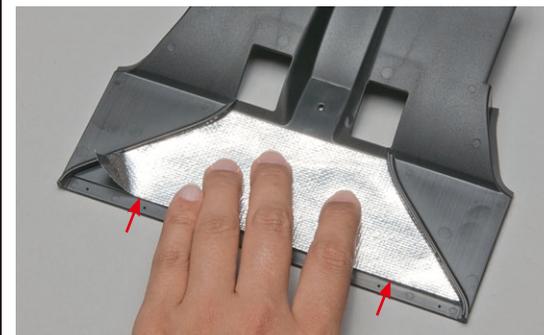
- 13ページにあるシルバーラベルFの型紙をコピーするなどして型紙をつくり、もう1枚のシルバーラベルの裏側にシルバーラベルFの型紙を書き写し、カッターで切り抜く。



- 裾の広がった部分の片方の端の剥離紙を少しはがしてカットする。



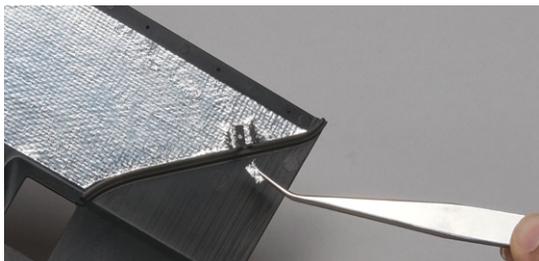
- 剥離紙を剥がした粘着部分に注意しながら、写真のようにシルバーラベルFの長い方の辺を①アンダーパネル(後)の前方、赤矢印で示した段差のある部分に合わせる。



- まず剥離紙をはがした部分を密着させ、そこから剥離紙をはがしながら密着させていく。



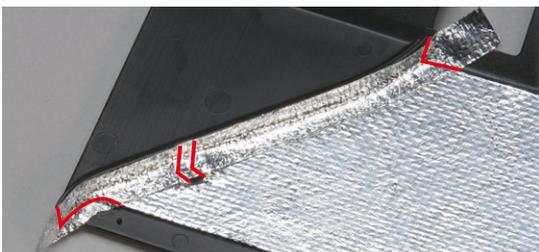
● ステップ 1と同様に、左右の突起がある部分に切れ目を入れ、ピンセットで取り除く。



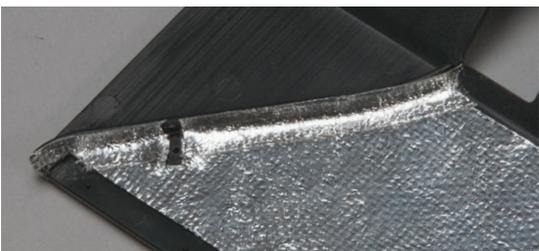
● シルバーラベルCの剥離紙を少しめくり、写真のようにアンダーパネル(後)の左側のパーツに高さを合わせて貼っていく。



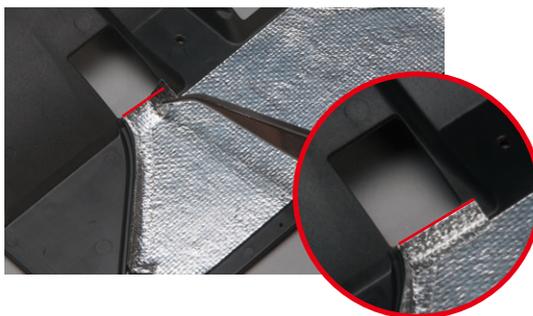
● 赤線で示した不要な4箇所をカッターでカットする。



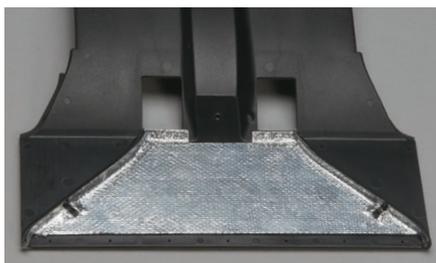
● それぞれカットした部分をピンセットで取り除く。



● シルバーラベルDの長辺をアンダーパネル(後)の左側の穴の底辺(赤線)に合わせて貼る。



● 右側も同様に、シルバーラベルCを貼り、不要な部分をカッターでカットし取り除いてから、シルバーラベルDを貼る。



今号の完成

アンダーパネル(前)(後)にシルバーラベルが貼られた。

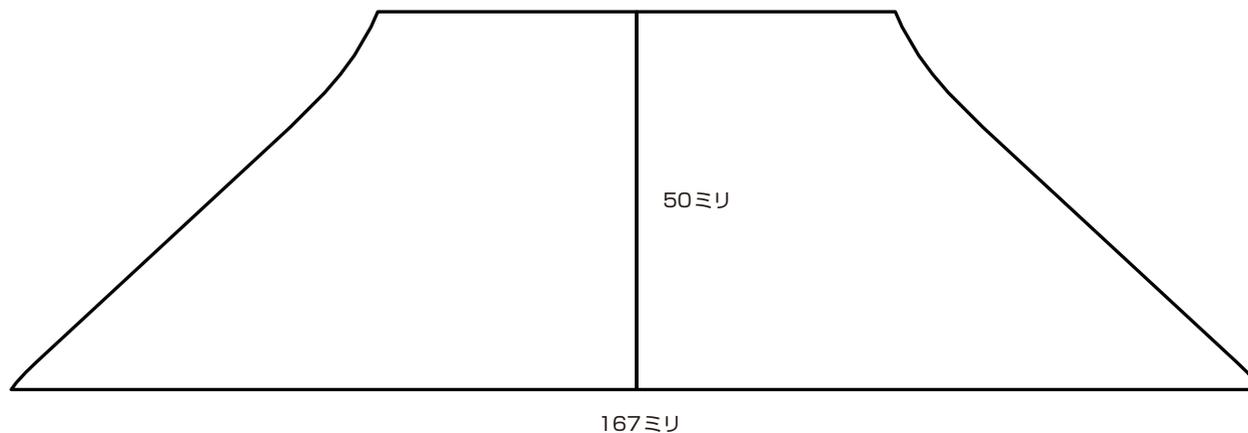


保管パーツ

今号で使用しなかった②テールパイプエンドプレート(右)、③テールパイプエンドプレート(左)、④プレートパーツ(右)、⑤プレートパーツ(左)とシルバーラベルEは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。

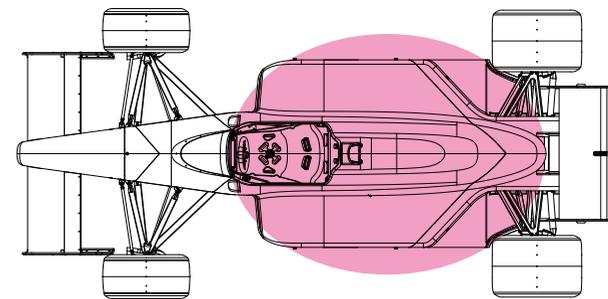


シルバーラベルF 型紙



Mission 49 アンダーパネルを組み立てる

今号は、ヒートエクスチェンジャーにシルバーラベルEを貼り、テールパイプエンドプレート(左)(右)にプレートパーツ(左)(右)をそれぞれ装着し、アンダーパネル(前)(後)に取り付ける準備をする。次にアンダーパネル(前)(後)にボディマウントブラケットを取り付け、ヒートエクスチェンジャーやテールパイプエンドプレートを装着する。



今号のパーツ

① ブレーキライン(左前)



② ブレーキライン(右前)



③ ブレーキライン(左後)



④ ブレーキライン(右後)



⑤ スロットルケーブルブラケット



⑦ スロットルリンク(中)



⑥ スロットルリンク(左)



⑧ スロットルリンク(右)



⑨ ホースC (Φ 1.7×150ミリ)



⑩ コネクター×6 (ランナーパーツ)



⑪ ラインラベルB



※ ①～⑧、⑩はHIPS (スチロール樹脂)製

コックピット内のブレーキペダルを踏むと、その力はフロントとリア、2系統のマスシリンダーで油圧となって、パイピングによりそれぞれのブレーキキャリパーへ伝達され、ブレーキパッドが可動することで制動がかかる。MP4/4では、1枚のブレーキディスクに2つのブレーキキャリパーが設置されているため、ブレーキラインが油圧をそれぞれのブレーキキャリパーに振り分けている。本モデルでは、組み立てやすさを考慮しホース取り付け位置に穴を開けている。

◀MP4/4のブレーキライン。

今号で使用する道具

- ・プラスドライバー (00番) ※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤・カッター・はさみ・ピンセット
- ・つまようじ

用意するもの

- ・ヒートエクスチェンジャー ※10号で提供
- ・ボディマウントブラケットA×4・ボディマウントブラケットB×2 ※47号で提供
- ・アンダーパネル(前)(後)・シルバーラベルE (27×166ミリ)・テールパイプエンドプレート(左)(右)・プレートパーツ(左)(右) ※48号で組み立て・用意・提供
- ・ビスR (1.4×4 F-M BK)×6 ※47号で提供

ディテールアップ

ブレーキラインのスマ入れ

●ブレーキライン(左前)(右前)(左後)(右後)は、赤矢印で示したつなぎ目や突起の付け根、凹みにスマ入れをすると重厚感が増す。この作業は、組み立てをする前に行う。



※スマ入れは任意の作業だ。詳しいスマ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

In Focus

1 ヒートエクスチェンジャーにシルバーラベルEを貼る

- 10号で提供されたヒートエクスチェンジャーと48号で準備したシルバーラベルEを用意する。



- シルバーラベルEの剥離紙を少しめくり、剥離紙の端を1センチ程度カットする。



- ヒートエクスチェンジャーの上面、写真のような向きで端を合わせ、剥離紙をはがしながら面に沿って貼っていく。

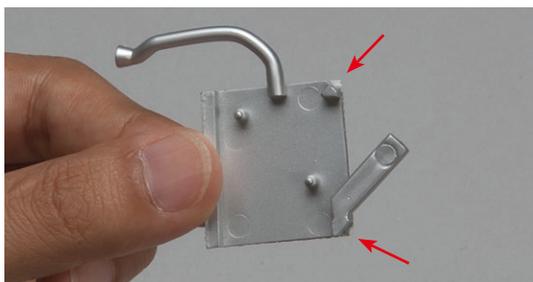


- ヒートエクスチェンジャーの角をきっちりと折り曲げて貼る。

- パーツの端まで来たら、はさみでカットする。



- 赤矢印で示した貼り始めの角の2箇所はラベルがはみ出ているので、はさみでカットする。



- ヒートエクスチェンジャーにシルバーラベルEが貼られた。



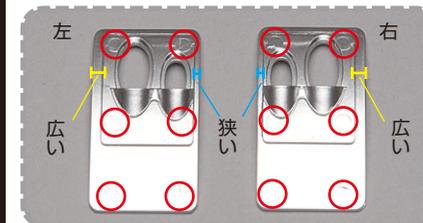
2 テールパイプエンドプレート(左)(右)にプレートパーツ(左)(右)を装着する

- 48号で提供されたテールパイプエンドプレート(左)(右)とプレートパーツ(左)(右)を用意する。



《仮組み》

テールパイプエンドプレートは、写真のように赤丸で示した丸い跡のある方を上に置いた際に、穴の左側が広く、右側が狭い方が左、左側が狭く、右側が広い方が右。プレートパーツ(左)(右)はそれぞれのエンドプレートと形状がぴったり合うことを確認する。



- プレートパーツ(左)のテールパイプエンドプレートとの接着面の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

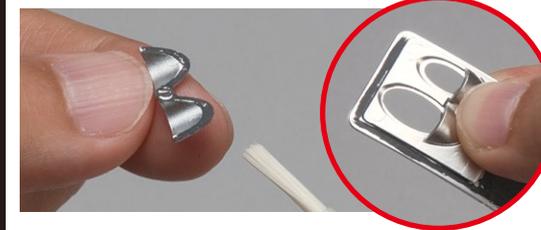


- テールパイプエンドプレート(左)のプレートパーツ(左)との接着面と、アンダーパネルとの接着面となる部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。

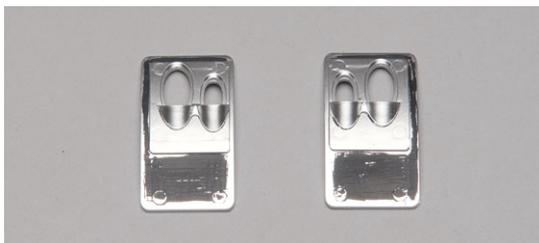


- 赤線で示した幅の狭い辺の部分は塗装をはがさなくてよい。

- プレートパーツ(左)の接着面にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたようにテールパイプエンドプレートに合わせて、2~3分押さえる。

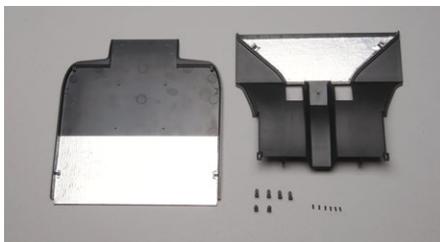


- 同様に、テールパイプエンドプレート(右)とプレートパーツ(右)を接着し、それぞれ1時間程度置いて、完全に接着されたことを確認する。



3 アンダーパネル(前)(後)にボディマウントブラケットA、Bを取り付ける

- 47号で提供されたボディマウントブラケットA×4、ボディマウントブラケットB×2、ビスR×6と48号で組み立てたアンダーパネル(前)(後)を用意する。

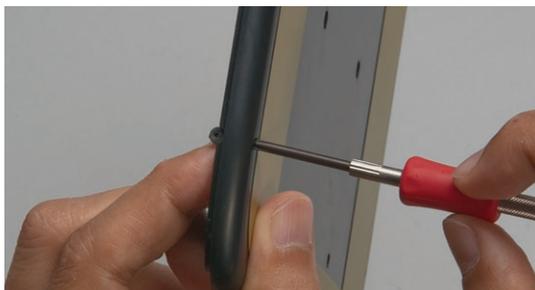


- ボディマウントブラケットAを写真のように長い辺を立てるようにして持ち、アンダーパネル(前)の赤矢印で示したビス穴に合わせる。



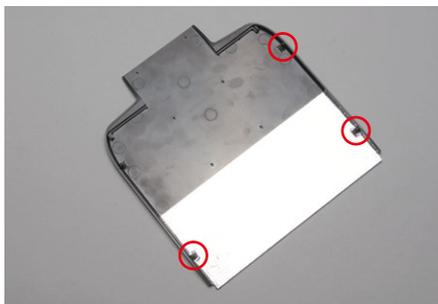
- ボディマウントブラケットAの向きに注意してビス穴に合わせる。

- ボディマウントブラケットAを押さえながら、アンダーパネル(前)の反対側からビスRを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- ビスの締めすぎに注意する。

- 同様にして、アンダーパネル(前)の赤丸で示した残りの3箇所のビス穴にも、ボディマウントブラケットAを取り付ける。

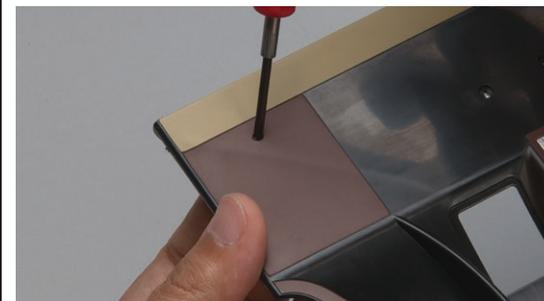


- ボディマウントブラケットBを写真のように長い辺を立てるようにして持ち、アンダーパネル(後)の赤矢印で示したビス穴に合わせる。



- ボディマウントブラケットBの向きに注意してビス穴に合わせる。

- ボディマウントブラケットBを押さえながら、アンダーパネル(後)の反対側からビスRを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- ビスの締めすぎに注意する。

- 同様にして、アンダーパネル(後)の黄色い丸で示した残りの箇所にもボディマウントブラケットBを取り付ける。



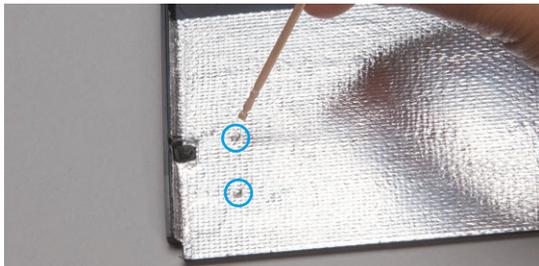
4 アンダーパネル(前)にヒートエクスチェンジャーを装着する

- アンダーパネル(前)左側後方のブラケット付近を指で押さえ、青丸で示した2箇所の凹みを確認する。



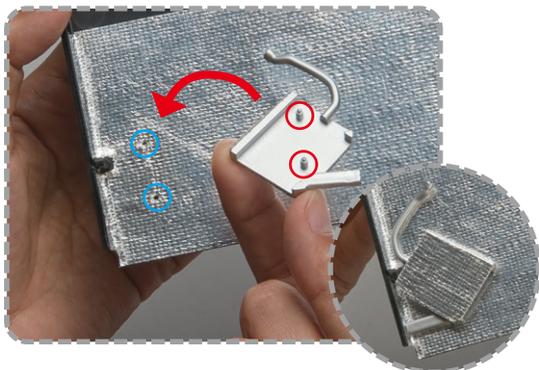
- 赤丸内の写真のようにシルバーラベルの下には2箇所の凹みがある。

- 2箇所の凹みに、つまようじの頭の部分で穴を開ける。

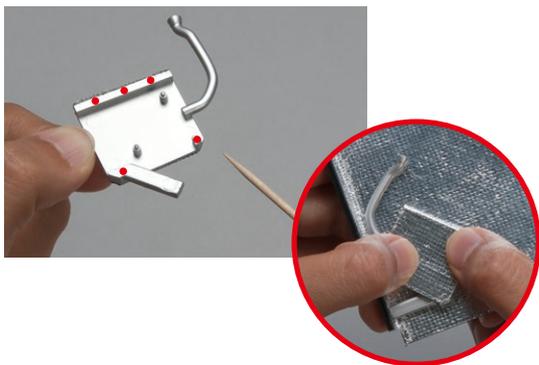


《仮組み》

ヒートエクスチェンジャーの裏側にある赤丸で示した突起2個を青丸で示した凹みに合わせるように、アンダーパネル(前)に組み合わせ、接着面を確認する。



- ヒートエクスチェンジャーの赤点で示した部分に瞬間接着剤をつまようじで少量塗り、仮組みしたようにアンダーパネル(前)に組み合わせ、1分ほど押さえる。



- アンダーパネル(前)にヒートエクスチェンジャーが装着された。



5

アンダーパネル(後)にテールパイプエンドプレート(左)(右)を取り付ける

《仮組み》

アンダーパネル(後)を裏返し、テールパイプエンドプレート(左)を写真のように組み合わせる。



- テールパイプエンドプレート(左)がしっかりとまっていることを確認する。

- ステップ2で塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、仮組みしたように組み合わせ、2~3分押さえる。



- 接着剤がはみ出ないように注意する。

- 同様に、テールパイプエンドプレート(右)をアンダーパネル(後)の裏側から取り付ける。



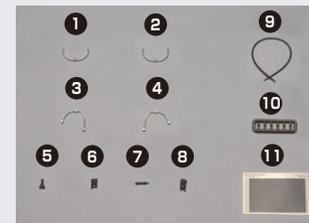
今号の完成

アンダーパネル(前)(後)にボディマウントブラケットA、Bを取り付け、アンダーパネル(前)にシートラベルEを貼ったヒートエクスチェンジャーを、アンダーパネル(後)にプレートパーツ(左)(右)をそれぞれ装着したテールパイプエンドプレート(左)(右)を取り付けた。



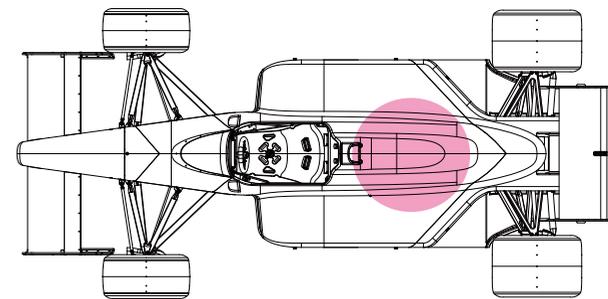
保管パーツ

今号で使用しなかった①ブレーキライン(左前)、②ブレーキライン(右前)、③ブレーキライン(左後)、④ブレーキライン(右後)、⑤スロットルケーブルブラケット、⑥スロットルリンク(左)、⑦スロットルリンク(中)、⑧スロットルリンク(右)、⑨ホースC(Φ1.7×150ミリ)、⑩コネクター×6(ランナーパーツ)、⑪ラインラベルBは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



Mission 50 エンジンを組み立てる②

今号から、エンジンの組み立てに入る。まず、組み立て前の準備として、エンジンブロックに仮留めしてあるパーツ外す。次に、カムカバーベース(左)(右)、マニホールドインテークベース(左)(右)、サイドブロック(左上)(右上)、外したエンジンブロック(前)(後)、カムカバー(左)(右)、そしてプラグソケットの順に取り付ける。



今号のパーツ

① マニホールド
インテークベース(左)



④ マニホールド
インテークベース(右)



② カムカバーベース(左)



⑤ カムカバーベース(右)



③ サイドブロック(左上)
ダイキャスト製



⑥ サイドブロック(右上)
ダイキャスト製



⑦ ビスJ (1.4 × 6P-M BK) × 7



⑧ ビスL (1.4 × 8P-M SiL) × 3



⑨ ナットA (M3 BK) × 2



※ビスとナットは各1本予備を含む。

※①②④⑤はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・ プラスドライバー (00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・ 瞬間接着剤・カッター・マスキングテープ
- ・ ピンセット・つまようじ

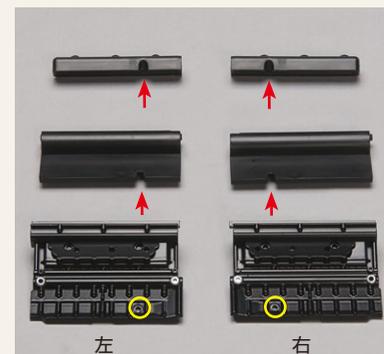
用意するもの

- ・ プラグソケット × 6 ※6号と7号で提供
- ・ エンジンブロック ※7号で組み立て

ポイント

左と右を確認する

●マニホールドインテークベース、カムカバーベースには赤矢印で示した部分に切り欠きがある。写真のように置いた際に、切り欠きが右側にあるものが左、左側にあるものが右になる。サイドブロックは、黄色い丸で示したビス穴が右側にあるものが左、左側にあるものが右になる。



エンジンブロックは、鋳造されたブロックにピストンやカム、ギアなどが組み込まれている。本モデルでは、軽量化のためにコアを樹脂製にし、サイドブロックをダイキャスト製にすることで、その質感を再現している。また、一部のボルトを塗り分けることで、実車のディテールに近づけている。

◀MP4/4のエンジンの左側面上部。

In Focus

1 エンジンブロックにパーツを取り付ける準備をする

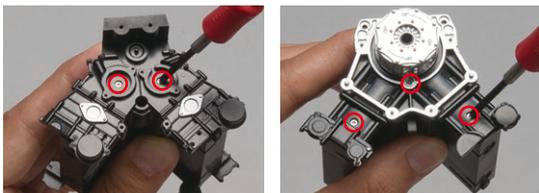
● 7号で組み立てたエンジンブロックを用意する。



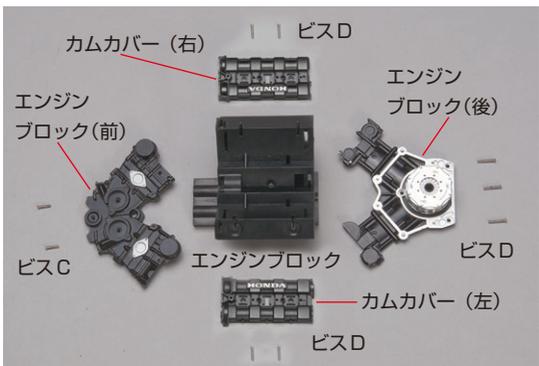
● エンジンブロックからプラスチックドライバー (00番) を使用して、7号で仮留めたカムカバー (左) (右)、3号で仮留めたエンジンブロック (前)、4号で仮留めたエンジンブロック (後) を取り外す。



■ ビスは再び使用する
ので、それぞれ何の
ビスで留めてあったか、
わかるようにしておく。



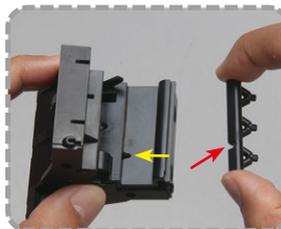
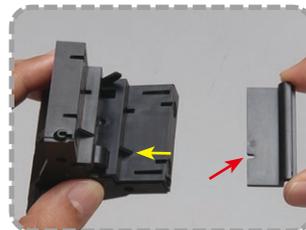
● エンジンブロックから、カムカバー (左) (右) とビス D×4、エンジンブロック (前) とビス C×2、エンジンブロック (後) とビス D×3 が取り外された。



2 エンジンブロックにカムカバーベース (左) (右)、マニホールドインテークベース (左) (右) を取り付ける

《仮組み》

② カムカバーベース (左) の赤矢印で示した切り欠き部分を、エンジンブロックの黄色い矢印で示した突起に合わせる。

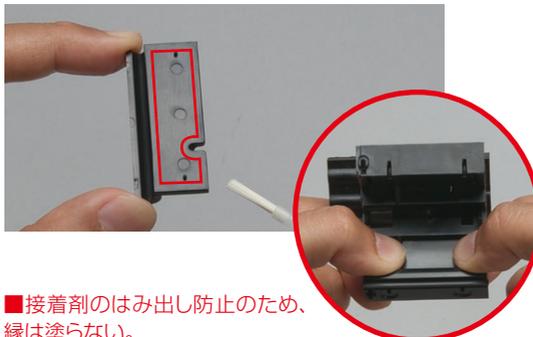


① マニホールドインテークベース (左) の赤矢印で示した切り欠き部分を、エンジンブロックの黄色い矢印で示した突起に合わせる。

カムカバーベース (左) とマニホールドインテークベース (左) の接着面を確認する。



● カムカバーベース (左) の裏面、赤枠の内側にプラモデル (スチロール樹脂) 用接着剤を塗り、仮組みしたように合わせて、2~3分押さえる。



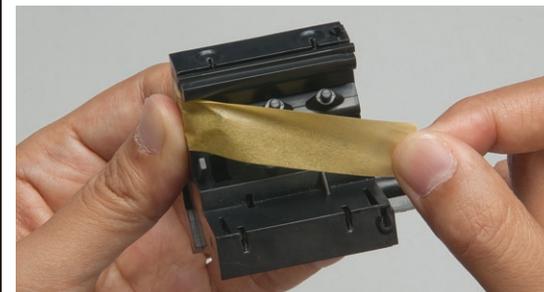
■ 接着剤のはみ出し防止のため、
縁は塗らない。

● マニホールドインテークベース (左) の接着面にプラモデル (スチロール樹脂) 用接着剤を塗り、仮組みしたように合わせて、2~3分押さえる。



■ 接着剤のはみ出し防止のため、
つけ過ぎに注意する。

● 7センチ程度にカットしたマスキングテープを用意し、写真のように固定して、1時間ほど置き、完全に接着されたことを確認する。



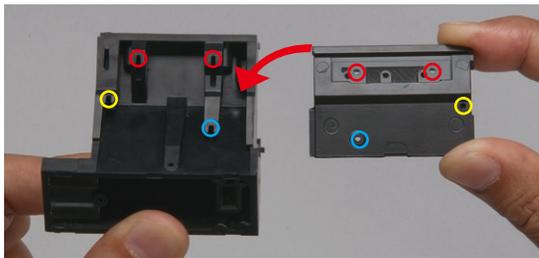
● 同様に、⑤カムカバーベース (右)、④ マニホールドインテークベース (右) を取り付け、7センチほどにカットしたマスキングテープで固定し、1時間ほど置き、完全に接着されたことを確認する。



3

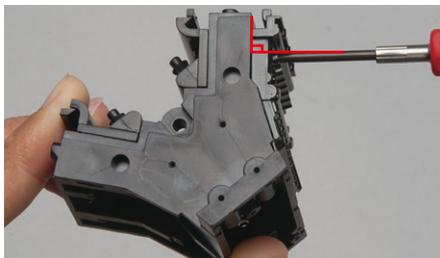
エンジンブロックにサイドブロック (左上) (右上)、エンジンブロック (前) (後) を取り付ける

● エンジンブロックの左側面に㉔サイドブロック(左上)を組み合わせるので、ビス留めする位置4カ所を確認する。それぞれ同色で示した部分が重なる。

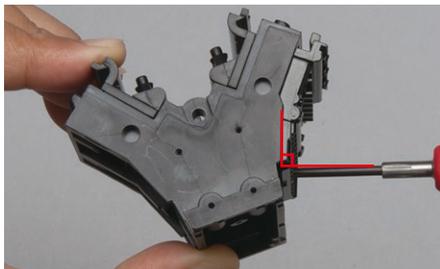


■ 赤丸と青丸のビス穴にはビスJを、黄色い丸にはビスLを使用する。

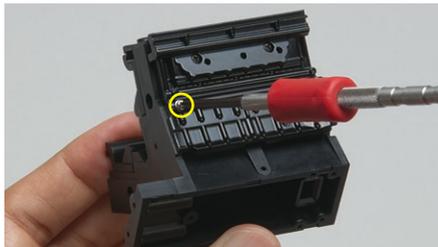
● エンジンブロックの左側面にサイドブロック(左上)を組み合わせ、赤丸で示したビス穴2カ所に㉗ビスJをそれぞれ差し、エンジンブロックに対して直角にドライバー (00番)で締める。



● 青丸で示したビス穴にもビスJを差し、エンジンブロックに対して直角にドライバー (00番)で締める。

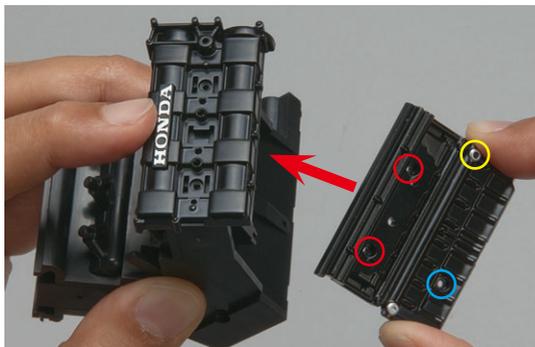


● 黄色い丸で示したビス穴に㉘ビスLを差し、ドライバー (00番)で締める。



■ ビスの頭がパーツに接したところで締めるのをやめる。

● ㉚サイドブロック(右上)は位置が決まりにくいので、ステップ1で外したカムカバー(右)をエンジンブロックに合わせ、そこにサイドブロック(右上)を組み合わせる。サイドブロック(左上)と同様にビス留めする4カ所を確認する。



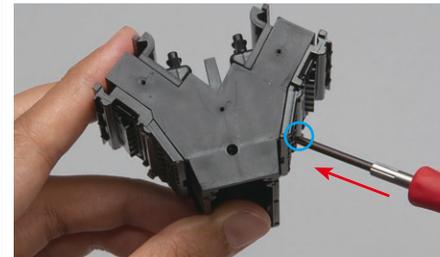
■ 赤丸と青丸のビス穴にはビスJを、黄色い丸にはビスLを使用する。

● 赤丸で示したビス穴2カ所にビスJをそれぞれ差し、ドライバー (00番)で締める。



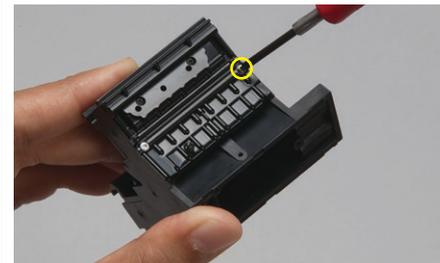
■ 赤丸部分2カ所のビス留めが済んだら、カムカバーは外す。

● 先ほど青丸で示したビス穴にビスJを差し、ドライバー (00番)で締める。



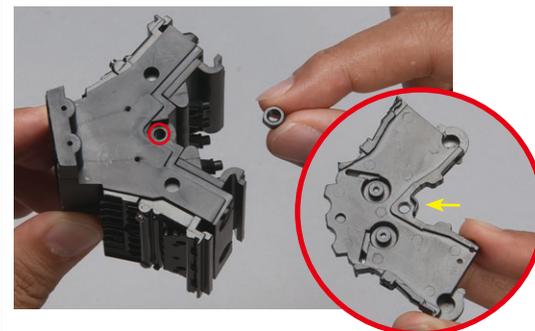
■ 左側とは異なり、エンジンブロックに対して、斜め上方向にドライバーを向けるようにすると締めやすい。

● 黄色い丸で示したビス穴にビスLを差し、ドライバー (00番)で締める。



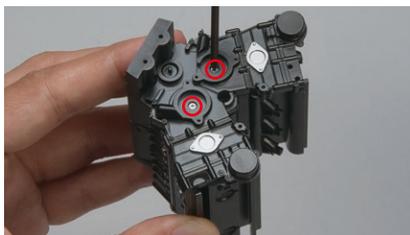
■ ビスの頭がパーツに接したところで締めるのをやめる。

● エンジンブロックの前側、赤丸で示した部分に㉙ナットAを合わせる。エンジンブロック(前)の裏側の黄色い矢印で示した部分に、ナットAを固定する突起があることを確認する。

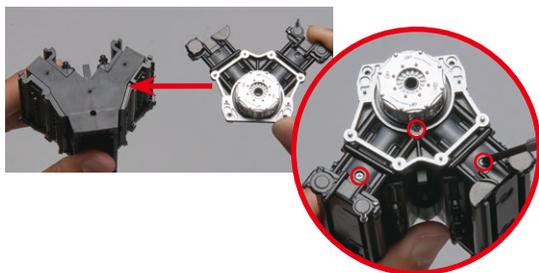


■ ナットAに表裏はないので、どちらの面でもよい。

- エンジンブロックにエンジンブロック(前)を合わせ、赤丸で示したビス穴2カ所にそれぞれビスCを差し、ドライバー(00番)で締める。



- エンジンブロックにエンジンブロック(後)を合わせ、赤丸で示したビス穴3カ所にそれぞれビスDを差し、ドライバー(00番)で締める。



4 エンジンブロックにカムカバー(左)(右)とプラグソケットを取り付ける

- 6号と7号で提供されたプラグソケットを用意する。

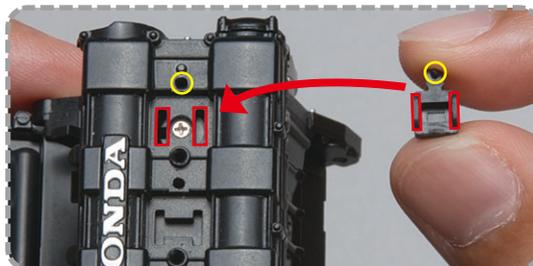


- ステップ 1 で外したカムカバー(左)をエンジンブロックに合わせ、赤丸で示したビス穴2カ所にビスDを差し、ドライバー(00番)で締める。



《仮組み》

プラグソケットの赤枠で示した突起2カ所と黄色い丸で示した突起、カムカバー(左)の赤枠で示した凹み2カ所と黄色い丸で示した凹み、それぞれ同じ色を組み合わせるので確認する。



《仮組み》

カムカバー(左)にプラグソケットを組み合わせ、接着面を確認する。



■ プラグソケットの正面には、文字が印刷されているので、できるだけ触れたり、こすったりしないようにする。

- プラグソケットの先端の赤丸で示した突起の根本部分に、つまようじで瞬間接着剤をごく少量塗り、仮組みしたように、カムカバー(左)にプラグソケットを合わせ、1分ほど押さえる。



■ パーツが小さいので、接着剤がはみ出ないように注意する。

- 同様に、残りの2カ所にもプラグソケットを取り付ける。



- 同様に、エンジンブロックにカムカバー(右)を装着し、残り3個のプラグソケットをそれぞれ取り付ける。



今号の完成

エンジンブロックにカムカバーベース(左)(右)、マニホルドインテークベース(左)(右)、サイドブロック(左上)(右上)、エンジンブロック(前)(後)、カムカバー(左)(右)、プラグソケットを取り付けた。

